

学校だより

6月号



東深沢

令和7年5月30日

みしまの森学舎

世田谷区立東深沢小学校

校長 奥長 英樹



‘子どもがつくる’ ‘子どもが創る’

校長 奥長 英樹

先日の運動会には多数ご来校いただき、子どもたちに多くの声援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

子どもたちの運動会に向かった活動は、各学年学級で一生懸命に取り組んでいる様子が見られました。学年で会を重ねた練習も、徐々に気持ちが一つに向かっていくような感覚を感じられた子どもたちも多かったと思います。でもそれは、全体としてのムーブメントであり、子どもたち一人一人には、その子なりの葛藤や努力があったのだと思います。運動が得意な子も苦手な子もいます。体調面やその時のコンディションも一様ではありません。運動会の練習に夢中になれる子もいれば、そうでない子もいます。学校行事という性格上、年度ごとに積み上がってきたものもあれば、その年その学年の先生たちの見立てた内容設定もあります。一人一人、取り組みの温度や夢中の度合いは違って当たり前なのです。しかしながら、私たち教員は、運動会という晴れの舞台で、子どもたち一人一人が輝き、学年全体が良い集団形成を成すことを望み、取り組みます。達成感や自己更新の実感を得られるように、指導や支援を加えます。ともすると、大人の思いが先行してしまうこともあるので、そこは子どもたち一人一人をしっかりと見とり、学級学年の集団の様子を見とって取り組みます。では、そこに主体性がどのようにあったか？自分ごととして運動会に臨む多くの子どもたち、参加することで自己更新しようとする子どもたち、できることをやりやれることをし、運動会の一体感を感じ取ろうとした子どもたち。思いや取り組みは様々です。ですが、それぞれがやってよかった、取り組んでよかった、という思いをもてたとしたら、そこには間違いなく子どもたち一人一人の主体的な思いや取り組みがあったのです。そしてその思いは、集団で取り組んだ、みんなと取り組んだ、先生と取り組んだからに他ありません。PTA 役員の皆さん、おやじの会の皆さんが共に運営支援に携わってくださったこともです。声援を送っていただいた保護者の皆さん、地域の皆さんも一緒です。皆さんの声が、拍手が、子どもたち一人一人を主体的な姿にさせていただきました。「子どもとつくる」運動会であり、自ら輝いた ‘子どもがつくる’ 運動会だったのだと思います。

さて、子どもたちの主体性をより伸ばすために、‘子どもがつくる’ からさらに一步踏み込んで、‘子どもが創る’ 取り組みも大切です。それぞれの学年で、また学年を越えて様々な学びを展開します。6月は、学校公開も予定していますが、学校に来られる機会がありましたら、どうぞ子どもたちの学びや生活を見ていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。